

【石狩管内】本との出会いから学びをつくる図書館（石狩市立双葉小学校）



アニメーション

学校司書によるアニメーション※

すべての学級の国語の時間で、学校司書によるアニメーションを行っています。思わず引っかかってしまう「〇×クイズ」では、児童が集中し、想像力を働かせ、正解するために全力で取り組みます。また、グループで「〇×クイズ」を行うことで、真偽を判断するために、他者と対話的なやりとりが増え、集中力や想像力、聞く力などが高まっています。学校司書の中川さんは「楽しみながら本に親しんでもらいたい。」という想いで、アニメーションの準備を進めています。

※事前に本を読み、その内容に関してゲームをするグループ参加型の読書指導メソッド。
深く読む習慣、読解力、コミュニケーション能力を養うことを目指す。

参考：『図書館情報学用語辞典』『図書館ハンドブック』

児童が本の魅力に出会える仕掛け

イベント「春の本まつり」では、普段手に取らない本と出会う機会を創出するため、本のカバーや中身が見えないように包み、一部の情報のみをカードに記載して並べています。同封の感想用紙を提出すると、学校司書手作りのしおりが贈られることから、来館する児童の増加、多読、そして興味・関心の拡大につながっています。

偶然、お菓子を題材にした本と出会った児童が、家庭で本について話題にしたところ、保護者が実際にお菓子を作ってくれ、また本を借りてほしいとのリクエストから、再来館につながった例もありました。中川学校司書は、今後も児童が本の魅力に気づき、たくさんの本と出会うきっかけをつくりたいと語っていました。



本はきれいに包装され、題名や作者、表紙は借りるまでわからない

【十勝管内】「本とつなげる」学校司書の力（大樹町立大樹小学校）



図書の分類の学習の様子

「本が読める」自信をつけてほしい

大樹町では、町立図書館職員が学校司書として町内の小・中学校を巡回しており、大樹小学校には、週2回訪問しています。図書館業務だけでなく、授業で扱った題材や単元に関連する図書を廊下に展示したり、子どもたち一人一人の調べ学習の題材に合わせた本を選書し提供したりと、「子どもと本をつなげる」役割を果たしています。多くの子どもたちが自然に本を読み、活用できる力を身に付けていますが、自覚がないことがあります。そこに気づき、自信をもってもらうことを心がけています。

子ども、先生、授業に寄り添う

学校司書は、学校図書館に来る「授業と関連した本が読みたい」子どもや「次の授業で使う資料を揃えてほしい」先生への対応だけではなく、国語科を中心に、図書が役立ちそうな単元があると、積極的に授業支援に入ったり、活用できそうな本を揃え提案したりもしています。

大樹小学校では、「学校図書館年間活用計画」に基づいて、図鑑の使い方や図書の分類を指導し、POP制作やビブリオバトルにも取り組むなどしており、学校司書の力が、よりよい教育活動に大きく貢献しています。



毎年4年生で実施するビブリオバトル